

第71回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

実行委員長：厚田幸一郎
(北里大学病院薬剤部長・薬学部教授)

平成30年10月27日(土) 13:00～17:00に北里大学相模原キャンパス臨床教育研究棟IPEホール(神奈川県相模原市)に於いて、第71回医療薬学公開シンポジウム(主催：一般社団法人医療薬学会、共催：北里大学薬学部、公益社団法人神奈川県薬剤師会、公益社団法人相模原市薬剤師会、後援：公益社団法人神奈川県病院薬剤師会)を開催した。

本シンポジウムでは、テーマを「これからの薬剤師教育を考える」に設定し、薬学部教員、病院薬剤師、薬局薬剤師の立場から、卒前教育及び卒後教育の現状と課題についてご講演頂いた。参加者は104名(病院薬剤師77名、薬局薬剤師13名、大学教員11名、その他3名)であり、広島、愛媛、大阪、愛知など神奈川県外からの参加もあった。

初めに基調講演として、北里大学メディカルセンター薬剤部長・薬学部教授の尾鳥勝也先生より、「卒前教育・新薬学実務実習の現状と課題」について、薬業連携を推進している一般社団法人兵庫県薬剤師会副会長の三宅圭一先生より「病院と薬局の薬業連携による薬剤師教育」についてお話し頂きシンポジウムに入った。

シンポジウムでは薬局、中小病院、大学病院、海外での教育についてそれぞれの立場からの報告がなされ、討議を行った。ファーマシー丸山台の三澤喜彦先生は「薬局薬剤師の研修プログラム」について、横浜総合病院薬剤科佐村優先生は「中小規模病院の専門・認定薬剤師教育ー抗菌化学療法を中心にー」について、聖マリアンナ医科大学病院薬剤部の前田幹広先生は「臨床薬剤師を育てる！～10年後の未来を見据えて～」という演題で大学病院の立場からお話し頂いた。最後に北里大学メディカルセンター薬剤部宮森亜紀子先生、北里大学病院薬剤部赤嶺聡彦先生、山本悠樹先生からの「北里大学における薬剤師海外研修」報告の後、総合討論を行った。基調講演とシンポジウムを通して、病院薬剤師、薬局薬剤師に求められるこれからの薬剤師教育について考える良い機会になったと思う。さらに、シンポジウム終了後に情報交換会を行ったが、参加者のほとんどが参加し活発な情報交換が行われていた。

最後に今回のシンポジウム開催にあたりご共催頂いた北里大学薬学部、神奈川県薬剤師会、相模原市薬剤師会、ご後援頂いた神奈川県病院薬剤師会、さらに企画・運営にご助言頂いた日本医療薬学会事務局の方々に厚くお礼申し上げます。